

従業者向け 放課後等デイサービス評価表

○ 本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。
 「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令基準は満たしているものの、指導訓練時で使用する教材、用具の置き場所の整備を要する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用児童数を把握し、適切な人員配置を遵守していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		現時点ではバリアフリーを要する利用者はなく、バリアフリー対応は未定である。室内は2階建て構造となっているため、室内移動、及び、避難経路に関しては安全確保に留意する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		適切な空調設備による換気に、窓の開閉、消毒など人為的な管理を行い、感染予防対策を実施している。清掃点検表から環境、空間の不備が生じないよう、また迅速対応を心掛けている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		クールダウン室、個別対応の部屋を設けている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○	十分とは言えません。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		無記名アンケートとは別にlineによる実態調査（改善点、要望等）を実施、迅速な対応に留意している。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員会議を随時開催、（リモート会議も含む。）課題解決、改善に向けて全職員からの意見交換を実施、管理体制全般の見直しを常に構築しています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		相談支援員、臨床心理士などの専門職員から、評価、助言をいただき、業務改善に繋げています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		限られた人数の研修参加者であるが今後、実務経験年数にこだわらず、研修・訓練を実施、全職員参加型にシフトチェンジしていきます。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		全職員がプログラム作成に関り、適切にその公表に務めています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		本人中心支援に係る多くの事象を想定し、分析、検討、協議を重ねながらサービス計画を作成します。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個々の職員が多視的なアプローチから児童に関り、ボトムアップ、トップダウンの融合性から、本人中心支援に結びつくよう固定観念を排除し、全職員が日々、研鑽に努めています。

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○	児童の置かれている状況の把握、日常生活の様子の変化などを読み取り、また常に支援計画に記された記述にフィードバックをかけながら支援への連携を維持しています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	個々のフォーマル、インフォーマルを認識し、適応行動、行動観察にアセスメントの使用を確認しています。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	保護者はもとより利用者を包括する全てのサービス機関の役割を網羅し、またそれらから取得できるサービスの種別、活動内容への認識、さらにサービス提供がどのように本人中心支援、身辺自立支援に反映、具現化していくかを想定し適切な支援内容を構築していきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	管理者、児童発達支援管理責任者のもと、外部の有識者からの助言も取り入れチームとして連携し、マンパワーでその立案に臨んでいます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	SNSなどを活用し、幅広く活動プログラムの知識、情報入手、認識かつ流動性を考慮しています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	ともすれば個人行動や思考に陥りやすい児童に対してはその状況下で適切な配慮工夫をしたうえで集団活動参加へ導き、サービス計画の下にて支援を行っています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	直近の児童の状況、様子を正確に把握し、また適材適所における職員の配置も考慮し、また支援内容が充足たよう職員間の連携、維持、強化をしています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	業務終了後は必ず打ち合わせを実施、その日に派生した事柄に危惧する事象を見出した場合はすぐにその対応の措置を図ります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	些末な事柄でも本人中心支援においては見過ごさず全てを傍受記録していき、その支援、検証に落とし込んで行きます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	記録の確認、検証の是非を問い、関わる職員すべての考察、見解を把握した中で、適切な見直しを行っています。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	基本活動の具体案を提示、その組み合わせから導き出される、経緯、結果の想定をしつつ柔軟性を兼ね備えた対策、対応の支援をしています。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	発言、発信力の不明瞭、微弱に関わらず、自己選択しやすいよう視覚的にも配慮工夫した環境、空間を整備、構築していきます。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	当事業所内における複数名の児童発達支援管理責任者、相談支援専門員からの助言、意見交換を踏まえた担当職員が参加しています。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	整えています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	学校との情報共有は相談事業所も交えて、定期的にその旨実施しています。さらに児童の送迎時、限られた時間内ではあるが学校担当職員と対応すべき事案に対しての連携をとっています。

関係機関や保護者との連携	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		各関連機関からできる限りの情報、係る資料の提供を収取し、また保護者、児童からの聞き取り面談を適時に行い、相互理解を深めています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		卒業生の移行先は事前に把握し、当事業所のサービス終了前から連携を取らせて頂いています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	十分とは言えませんができる限りの研修受講、参加、また助言などの受容体制をも全職員に周知させ、その徹底を図っています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		機会はそれほど多くありませんが、地域の児童との交流、活動は随時行っています。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		○	管理者、児童発達支援管理責任者以外の職員が積極的に参加しているとは言えません。実務経験に関わらず全職員の参加を目指します。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		あらゆる機会、場面を逃さず、課題解決、改善のために保護者との連携を怠らず、最善の支援を実施します。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		臨床心理士からの助言をも含め、職員全体で家族支援プログラムへの対応。また家族への情報提供はもちろんの事であり、今後も共に参加する研修の機会を多くしていきます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		変更、見直し、改善点があれば適時、行っています。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		本人中心支援を実施していく過程において児童自身、保護者の意向をそれぞれ踏まえ、また急を要する課題解決、改善に対応すべき体制を整えています。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		サービス計画の立案から作成に至るまで、児童にかかるすべての事案に検討、協議を重ねた中、保護者の同意を得ています。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		臨床心理士からの助言も取り入れ、適時、適切な対応をとっています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		限られた参加者ですが実施しています。今後はさらにそれらの機会を多くしていきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		適時、適切に対応しています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページを常に更新、最新の発信を維持、継続に努めています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		厳重な管理体制を整えています。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		児童が過ごす日々の生活の様子から得られる情報を漏れなく収得するためにも保護者との連携を怠ることがないよう配慮しています。

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		今後も地域住民の理解を維持していくための行事などを継続していきます。また中学生によるトライアルウィーク活動受け入れを当事業所の事業運営のひとつとして挙げています。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各事案のマニュアルの見直しを専門機関の情報提供に照らし合わせ対応。 訓練時、全職員緊張感を抱いて臨んでいます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画においては地域の協力、理解をも得ており適時、適切な訓練を実施しています。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		事前の確認を保護者、医療機関より得ており、発作時の対応、状況記録のあり方などを全職員その習得に努めています。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		詳細にいたるまで対応しています。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		建築物の不具合、地域周辺の地理状況等を専門部門に委ね、情報を収集し安全確保のため必要とされる改善、見直しを継続していくなかで安全計画を策定、その中で支援を実施しています。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		災害時等の対応、取り組み方については定められたマニュアルに従い、その旨実施してます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットの内容に関わらず、再発防止に向けて、協議、検討を重ねています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		身体接触、恫喝などを含め、虐待に繋がる、行為、行動に対しては細心の注意を払い、児童が安心、安全の中でサービス、支援が受けられるよう適切な対応を実施しています。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		保護者、各関連機関の同意を得たうえで、やむおえない場合のみの対応である事を明確にする中でその措置に対しての文言はサービス計画内に明記しています。

保護者向け 放課後等デイサービス評価表

(保護者の皆さまへ)

○本評価表は、放課後等デイサービスを利用するお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。
 「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「わからない」のいずれかに○を記入していただくとともに、「ご意見」についてもご記入ください。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	○				室内が2階建ての造りで部屋が大小合わせて4か所あり、子供の移動というか、安全かつ容易なのでしょうか。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	○				男性職員が多いので子供はとても喜んでます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	○				子供たちだけで過ごしているわけではないと思いますが、各部屋の使用というかその内訳が少し気になります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	○				動物を飼っていられるので、それなりに配慮されていると思われるのですが、動物が苦手な子供にどのような対応をしているのでしょうか。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	○				排便での様子を知り、またお声がけのおかげでおむつから卒業できつつあることを感謝しております。
	6	事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	○				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	○				もう少しだけ具体性といえますか、より現状に即した内容での記述をお願いします。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	○				本人中心支援、家族支援、移行支援との支援内容の項目があり、説明をしていただけるのですが、正直なところ理解できないところがあります。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	○				サービス計画の支援内容が学校生活にどのような関わってくるのか知りたいです。
	10	事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	○				
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	○				今のところ本には楽しく過ごせているみたいです。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	○				
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	○				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング（※5）等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	○				臨床心理士の先生が参加される研修があると聞いております。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	○				連絡ノートにきめ細かく書いていただき、また電話での対応にもありがたく感じています。

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	○				相談にのってもらいありがとうございます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	○				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	○				共有できる部分もあり理解してくれていることに甘えさせてもらい感謝しています。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	○				はい。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	○				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	○				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	○				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	○				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	○				
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	○				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	○				はちに刺されたときお手数をおかけしました。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	○				苦手な子供がいるそうです。 男のが苦手みたいです。 大声で少し乱暴的な
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	○				楽しんで過ごしています。 女の子友達ができて喜んでいます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	○				今後よりしくお願いします。 延長支援を受けていただきありがとうございます。

※1 「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をするのがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2

「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3

「放課後等デイサービス計画（個別支援計画）」は、放課後等デイサービスを利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4

「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

※5 「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス 栞			
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日 ～ 2025年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 1日 ～ 2025年 2月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	13名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 各児童の課題解決、改善を全職員が共有。 チームとして連携、維持強化。 各児童の特性、強みを詳細に分析、把握し日常生活、社会生活を営む中での支障の軽減、能力の向上を支援。 身辺自立の進捗状況を明確に記録、より可視化できる個シートの作成を個別支援計画とは別に導入。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員は支援者、指導員としてその責務を果たす中で、時には友人なり家族になりきった思いで関わるべき役割を負う。しかし、感情的思考が先行するのではなく専門的職員として福祉サービスを提供するにおいては福祉にかかる法令の認識、支援者、指導者としてのスキルアップに要する様々な研修を積極的に受講して行かねばなりません。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童2名に対し職員1名の配置を目指します。 児童の動作状況、改善点の有無などプライバシー保護、管理を遵守したうえで動画で記録し、支援の記録し、方向性の検討及び改善策に活用していきます。 視覚、聴覚による認知向上を促すグッズの導入、運動習慣を見つけてさすカリキュラムの設定を図ります。
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の空間、環境の拡張整備。 各部屋にレコーダー設置。 働き改革を推進していくための職員の増員。 各研修会への参加。 リモート会議の対応。 	<ul style="list-style-type: none"> 各訓練で使用する教材の増加。 児童の行為、行動のさらなる分析、検証を要する。 人員配置の補い、職員の休養。 研修参加によりスキルアップを目指す。 業務の効率化。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材管理、整理整頓の工夫。 行為、行動の現認確認、立証の補助的なものとして。 職員の健康管理を維持、労働条件のさらなる緩和。 本人中心支援の構築に向けての最善の支援が行えるよう書く職員が適切な研修の受講にてしにスキルアップを図る。
2			

3			
---	--	--	--

公表 養育者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス菜

公表日 年月日 2025年3月21日

利用児童
数 29名

回収数 20名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	5	0	0	2階建て構造であり、室内の移動に置いて安全が確保されています。	1階、2階の移動の際は職員の許可を得てからとなり、またその際、職員の見守り、付き添いがあります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	14	6	0	0	男性職員が多く、特に外遊びを楽しみにしています。	女性職員の配置も適切に対応しています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12	4	2	2	児童だけで過ごしている訳ではないと思いますが数か所に分かれている各部屋ではどのように過ごしているのか。	学年別、男女別、児童の特性を考慮しローテーションを編成しながら、支援に臨んでいます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12	6	2	0	動物（犬）を室内で飼っておられるので、その排泄とか、衛生管理面が少し気になります。	動物が苦手、またはアレルギー性の児童を把握し、特定の環境のみでの触れ合いを実施、衛生面にも留意します。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15	2	0	3	排泄時の様子を知り、手助けの軽減が見られることうれしく思います。	年齢を問わず同性介助を旨とし、また課題解決、改善事項を各職員が把握、支援計画に沿い支援を実施。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10	2	3	5		支援の進捗状況をより詳細に明確にするとともに常にあらゆる事象について検討、協議を重ねています。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	10	5	0	5	先の出来る、できていないことより、今、出来る、できないことへのアドバイスをより具体的に記してほしい。	原因、起因、結果・状況など、関わる全職員からの間関、分析、協議を重ね、支援計画に落とし込んで行きます。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10	3	3	4	チェック項目に書かれている支援内容について説明を受けましたが、本人支援がやはり気になります、今後よろしくお願いします。	本人支援を最優先課題としその責務を果たす中において家族支援、移行支援が示す支援内容との合理性を鑑み、支援計画の見直しから提供すべき支援の全体を留意します。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11	5	0	5	児童の様子などを細かく連絡ノートに書いていただきありがとうございます。	どちらとも言えない、分からないなどのご意見があること以上、現行の支援計画の抜本的な改善、見直しが急務である。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15	5	0	0		柔軟性を持ち得た活動プログラムであるか否かを検証し、日々協議を重ねていきます。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	12	8	0	0	公園での外遊びの時、地域の子供と一緒に過ごしていることもあると聞いています。	各児童の特性から適切な対応を保持しながら交流、活動を実施しています。
保護者へ	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15	5	0	0		運営規程その他に変更などがある場合には速やかにその対応を実施しています。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15	5	0	0	受けています。	日々の活動の様子から課題解決、改善点を協議、検討を加えながらその旨実施しています。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	5	5	0	もっと多くの機会を増やしてほしい。	相談支援専門員、臨床心理士、職員参加の中、全保護者に対して実施していきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	18	2	0	0	思います。	連絡ノート、直接対話にて共通理解への連携をとっています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15	5	0	0	はい、思います。	経緯、結果を客観的に示しながら根拠に基づき支援、助言を行っています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18	2	0	0	手がかかるのにも関わらず、とても親切にしてくれています。優しい方々で安心しています。	普段より保護者とのコミュニケーションを充足に行う事で信頼関係構築の一端を担っています。

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10	5	5	0	ご相談に乗っていただきありがとうございます。 同じ思いにの方々とお会えたことは良かったです。	家族間の出会いを単に儀礼的な形のものとするのではなく、児童達の今、今後についてを当事業所の支援を受ける中でお互いの情報交換など、意義ある会合を開催していきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17	3	0	0	子供の受け入れに関し快く対応していただき感謝しています。 疑問、相談において迅速に対応していただけてます。	職員間の連携を重視し、児童、保護者にかかる全ての事柄を管理者の元へ迅速に集結させる体制を整え、急な相談、申し入れにも適切な対応を実施しています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15	5	0	0	はい。 そのように受け止めています。 もう少し情報が頂ければうれしい	一方的な伝達で終わることなく、保護者、児童のニーズに対応している中での情報交換を実施しています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	10	5	5	0	見たことがありません。 アンケート調査の仕方にも少し、配慮工夫を希望します。	ホームページの更新を含め、自己評価結果の掲載、その他業務に関する情報などを的確に配信していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19	0	0	1	思います。 分かりません。	全職員とは秘密保持契約書を交わし、管理に万全を期しています。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	5	4	1	分かりません。	適切な時期を見計らって実施し、またマニュアル、訓練内容の見直し、改善を随時行っています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	7	0	3	分かりません。 していると思います。	訓練の経緯、結果の詳細をホームページにて発信していきます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13	7	0	0	思います。 安心 、安全を願っています。	何よりも児童の安全確保が最優先であり、彼らを危険にさらすことがないよう全職員その意識を持ち得ています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20	0	0	0	思います。 契約説明時に 受けました。	事故の際には、当事業所の定めるマニュアルに従い、速やかに対応します。
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	15	5	0	0	楽しんで過ごしています。 安心して通っています。 苦手なお友達がいるみたいです	児童達の過ごす環境、空間の整備の中、安心、安全、充実した時間で支援を受けれるよう責務を果たします。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	14	4	2	0	楽しんでます。 おやつや時間や提供される食事を楽しみにしています。	児童の成長を何よりの励みとし、児童たちが心より通所を楽しみにしてもらえよう邁進していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	14	6	0	0	今後もしろしくお願いします。 延長支援 をしていただき助かります。	現状維持に固執するのではなく、刮目を持ち得た対応で児童達と接し、支援を行っていきます。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025 年 3 月 21日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		集団活動、個別活動の場を明確にし、また施設敷地内の屋外スペースでは工作室を設営しています。	工作室の拡張。 全体的に手狭になりつつ感があるの で整理整頓を留意します。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		児童の特性にそった職員の人員配置を常に考慮しています。	児童2名に対し、職員1名を配置。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		2階建て構造において室内移動の際は安全確保のため決まりを設定。情報伝達をよりスムーズに図るための掲示物の活用。	玄関先の段差をより少なくする。 室内ビデオレコーダーの設置。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		各室内に設けられている物品の置き場所、また整理整頓をしやすいするためにその高さ、スペースに配慮しています。	日々欠かさず室内使用の前後において衛生管理を徹底していますが見えにくい部分の見落としがないよう留意しています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		クールダウン室、個別対応のスペース、また机上仕様、座卓仕様の部屋をそれぞれ設け、変化のある空間を整備しています。	児童がマット仕様の部屋で過ごす場合においては怪我に繋がる行為、行動への注意喚起を徹底しておかねばならない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○	PDCAサイクルのステップが前後せず、また停滞しないよう、そのプロセスを継続的に改善しています。	職務規程の中、明確にPDCAに係る項目を記し職員の参画、その意識を高めていきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの意向、評価表の内容等を真摯に受け止め、今後の業務内容改善に繋げています。	評価表に記された意見ならび保護者様からの意向にたいして迅速に対応できる体制を今後も維持、継続していきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		リモート会議を含め、常に連携を図り、意見交換をはじめ、諸々の課題解決、改善への協議、検討の場を設けています。	支援業務全体から派生する議案を検討、協議し業務改善に繋げていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		はい、繋げています。	専門的分野における各関連機関らの評価を踏まえたうえで、それらを反映、検証し協議を重ねて業務改善に繋げています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		確保しています。	児童発達支援管理責任者などの研修を含め職員のスキルアップ、及び支援の向上に係る研修に参加するようその機会を設ける。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムに職員間の意見を取り入れ、5領域に反映していけるようその体制を整え、公表に繋げています。	管理者、児童発達支援管理責任者のみにて支援プログラムの作製に関わるのではなく、全職員により協議、検討を重ねていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントへの重要性を認識し、理解したうえでその作成に臨んでいます。	互いの意見、考えを尊重しながらも客観的な視野をもってアセスメントにあたりその作成を構築していきます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		何が最善であり、危惧する点は何かなど状況を詳細に分析した中で全職員共通理解の下そのサービス計画の立案、作成に臨む。	表出部分のできる、できていないだけの判断ではなく伏在する内面的資質を見出せるよう今後も職員の研鑽が望まれる。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援内容や支援そのものの進捗状況を常に把握、共有したなかでの支援を行っています。	直接関わる職員の意見報告を受けると並行して全職員の共有事項としサービス計画の妥当性を鑑みる。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		フォーマル、インフォーマルの領域を認識し、行動状況、行動観察に留意しています。	確認の確認を職員間で徹底しその課題解決に迅速に対応していくための体制を今後も構築、維持していく。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		保護者様はもとより利用者様を包括する全てのサービス機関の役割、特色を職員が把握し、それらサービスが支援にどういった相乗効果をもたらすかを検証、協議を重ねたうえでの具体的な支援内容を設定しています。	ガイドラインに明記されている提供すべき支援の各項目内容を職員が整理、確認し、必要とされる支援が適切かつ継続的に行われるか具体的内容をもって示さなければならない。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		チームとして行っています。	外部からの専門的助言を参考、より精度の高い活動プログラムを立案し、目標達成への具現化を目指します。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		固定化することなく臨機応変に対応できるよう、職員自らが柔軟性を踏まえて活動、支援します。	固定観念に囚われがちになれば全てにおいて閉塞的に陥りやすく、そこからの脱却が難しくなることを留意していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		児童の特性を多視的にとらえると共に、できるだけ多くの情報から検討、協議を重ねて最善の組み合わせを構築します。	組み合わせの固定化を維持するのではなく児童の状況を見据えた中でサービス計画の作成、支援を実施します。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		日々、その旨行っています。	連携、チームが機能してこそ成り立つ支援現場であり、マンパワーがなければそれらは成立しない事を各職員改めて認識します。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		業務終了後、全職員からの報告を受け、付随する議題があり、また迅速な対応を要するのであればその措置に取り組みます。	各職員がそれぞれの業務への達成感を覚えるだけでなく、チーム連携の中、全日、全体を鑑みた支援のあり方を振り返ります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		口頭による事後連絡でなく、文章等で記録として残し、次なる支援に繋げています。	児童の活動場面、日常の様子、課題解決、改善すべき点など支援に繋がっていく事柄を常にメモし、記録として残します。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		サービス計画の見直しは適時行っています。	児童の課題解決、改善点等の進捗状況を的確に把握し、関連機関との連携、情報を収取した中で適時見直しを実施します。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		4つの基本活動を認識し児童の特性を鑑みて適切は支援を行っています。	全ての活動場面においてそれぞれの習得度合いをより適切な対応、支援ができるよう留意していく。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		本人中心支援において核となす部分であり、様々な視点からのアプローチを構築しています。	児童の特性を多視的にとらえる事で本人中心支援にどのように組み込めていくかを見極めより検証、協議を重ねて行きます。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当会議、関連機関の会議は担当職員が積極的に参加しています。	管理者、児童発達支援管理責任者のいずれかが会議に参加していましたが今後は機会ある度に、最適任者の参加を実施します。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		各関連機関との連携を維持しその支援体制を整えています。	各関連機関との関係性をより密にし今後の支援内容の精度を高めていきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校との連携維持、その強化をはかっていくにあたり、共有事項の確認や、情報提供を欠かさずに行っています。	学校関係者との交流を深め、児童の学校生活の様子、支援体制の情報などの提供を受け、今後の支援の内容に反映していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		事前に連絡を取り合い、資料、その他の情報提供を得ています。	児童の特性、環境、課題に向けての取り組み方など多くの資料、情報から今後の支援計画の作成その支援を実施していきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		サービス提供終了前から移行先との連携を図り、支援内容、情報提供を伝えるなどその旨実施しています。	移行先きの職員の来訪を受け入れ、支援状況を確認をしていただき、先のサービス提供、支援がスムーズに行えるようにする。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じてできる限りの助言や研修を受けています。	人的交流を行い連携に加速度を持たせそれを深めていきます。助言、研修から支援の向上を図るためその機会を維持します。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		公園など、地域の児童との交流があり共に楽しく過ごせています。	施設内外の場で互いに距離間を狭め交流の輪を広げていき、また地域外の児童ともその交流を深めていきたいと思います。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		限られた職員の参加です。	一部の職員の参加ではなく、全職員が協議会の役割、組織体制内の知識、認識を深め積極的な参加を構築していきます。

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達 の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		児童の活動内容や日常生活の様子を詳細に知らせ、必要とされる支援の見直しや急を要する支援に迅速な対応をしています。	児童の日常生活から見受けられる課題、改善点に向け保護者間と協議、連携を取り共通理解のうえ支援を実施していきます。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援 プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加 できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		臨床心理士、他専門家の助言を受けながら家族様の対応力向上のサポート、また研修会への参加を促します。	家族支援プログラム策定や家族参加型の研修会実施においては職員の業務に対する責務の重大さを認識しておかねばならない。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説 明を行っているか。	○		丁寧かつ簡潔な説明を実施しています。	各項目についてできるだけ具体的、簡潔な文言の活用に留意し、それらの説明をしなければならない。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護 者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点で踏 まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	○		児童の身辺自立に向けての指針を示すうえで最善の支援体制を整えるため保護者様、本人の意向を可能な限り汲み取ります。	児童に取っての最善の利益、それが保護者にとってもリンクするのかを明確に判断し、柔軟な対応をもって考慮します。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明 を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得て いるか。	○		各項目の説明、質疑応答に適切な対応を経てからの同意を受けています。	支援の骨格となる計画書には児童に対し、協議、検討を重ねた足跡を記さなければならない、そこには明確な支援の内容を示す。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面 談や必要な助言と支援を行っているか。	○		臨床心理士、その他専門機関からのサポートを受け職員が家族様からの悩み、相談には真摯に受け止め対応しています。	面談を申し込みやすい体制、適切な助言、支援を行うにあたり全職員が研修に参加するなど日々研鑽を積みまなければならない。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等 により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をして いるか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の 支援をしているか。		○	父母会の活動参加は限定的なものであり、ましてきょうだい同士の交流する機会は多くありません。	家族間の連携をはかるうえで事業所としてその責務を果たせねばなりません。また保護者会の構築又はその機会の継続的開催に向けては事業所として意味あるものとして取り組んでいかなければならない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備する とともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅 速かつ適切に対応しているか。	○		適切な対応を実施しています。	苦情受付の窓口をすでに設定しておりますが、苦情への対応、体制の見直しも踏まえて迅速な解決を図っていきます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用するこ とにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこども や保護者に対して発信しているか。	○		主に連絡ノート、ホームページを活用しています。	各保護者の許可を得た中で児童に関する動画の配信、施設内情報の告知をホームページ、SNS上での活用を図っていきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		厳重な管理体制を維持しています。	各職員と秘密保持契約書を交わし、またそれぞれの良識に委ね、信頼関係の下、厳重な管理を実施しています。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のため の配慮をしているか。	○		身振り、手振りを加え、視覚的にも留意、また保護者様との信頼関係を築くためにもコミュニケーションを不足を留意します。	情報収集、伝達が遅きに失したことになるように常にそのような配慮をし、体制を維持しています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業 運営を図っているか。	○		ご理解ある地域住民の方々へ感謝の思いを含め、地域の清掃にも参加しています。	今後、社会の一員として生活を営んでいく彼らにとり地域住民の理解は不可欠ゆえ、そのための運営事業を図っていきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニユアル、 感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知 するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各項目におけるマニュアルを随時見直し、修正箇所留意しながら緊急時に対応できるよう適時、訓練を実施しています。	形骸化した訓練にならないことを全職員が自覚して訓練に臨み、その結果報告書を義務付けていきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生 に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている か。	○		BCPの策定はもとより、いかに臨場感、緊張感を持ち得て訓練に臨めるかを見極めて全体を構築しています。	予告なしの訓練を実施し、職員、主に児童の動作状態などの詳細な記録を残し、それを分析、検証し後の訓練に繋いでいく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を 確認しているか。	○		事前にそれらに関する事項を把握、全職員が確認、認識のうえ十分な対応をしています。	体調管理を全職員が確認、共有し、体調の異変を感知した場合、記録を残し保護者様の連絡、関連機関への迅速な対応をとる。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づ く対応がされているか。	○		事前にそれらに関する事項を把握、全職員が確認、認識のうえ十分な対応をしています。	体調管理を、日々、全職員が確認、共有し、体調の異変を感知した場合、保護者様、関連機関への迅速な対応をとる。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要 な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われ ているか。	○		あらゆる場面を想定し何よりも児童の安全確保を最優先とした計画を協議、検討を重ね作成し十分な管理体制を維持している。	安全確保の維持における訓練、研修を適時、適切に行い、児童・職員の避難、安全確保へ訓練は特に重視し実施している。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう 、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知してい るか。	○		安全計画に安全確保の実態、職員・家族間との連携の在り方、その取り組み内容を明記するとともに事前周知を行っています。	安全確保の実態をより具象化できるものとして施設内外、地域周辺の様子を動画撮影のうえその周知をさらに図る。

52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		再発防止に向けては軽微なヒヤリハットであると見過ごすことなく、報告を重視し、共有を確認、再発防止に取り組みます。	個々の認識、判断にて見過ごすことがないようマニュアルに従いヒヤリハット事案をより慎重に協議、検討を重ねていきます。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止法に照らし合わせてマニュアルを作成。職員が不測の事態を起こす事がないよう研修を適時実施しています。	虐待の実態把握、理解の中、児童の尊厳、人権を脅かす事がないよう研修などを通し認識を深め万全な職務体制を構築する。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		児童の特性上からやむを得ない状況下にいたることにおいては保護者様の同意書を事前確認しその旨を計画書に明記します。	身体接触、恫喝と虐待行為に紐づけされる行為、行動を職員がとることなく、協議、検討を重ねその対応策を講じていきます。